

2024 年公立高校入試

《合格体験記》



【瑞陵高校】

僕は、中学1年の10月に入塾しました。入塾した当時、定期テストは30位台で、最終的に10位台に入れたら十分だという軽い気持ちで、高校にしてもほどほどのレベルの高校に行ければ良い、と本気で思っていました。

しかし、塾に通い始めてからの最初の定期テストで10位台に入り、あっという間に目標を達成することができました。その後も順調に順位も実力も伸び、最後には10位以内まで上がる事が出来ました。また、長期休み中の「春、夏、冬期各講習会」や、中3の9月からの「土曜講習」、11月からの「ザ・ファイナル（日曜講習）」が、実力をつける上で大きな土台となり、そしてまた、模試での結果からわかる自分の成長が大きな自信につながったことで、より一層頑張る事が出来たのだと思います。

志望校について深く考えるようになったのは、3年生になってからです。入塾当時に思っていたよりも学力が伸びたので、高いレベルの高校に行きたいと思うようになりました。受験まで、学力はもっと伸び続けるだろうと思っていたので、当時の学力よりも高いレベルの、「千種高校」や、「瑞陵高校」あたりのレベルの高校にしようと考えていました。が、そうはうまく行きませんでした。3年生の模試の結果は、思うように伸びておらず、点数や偏差値が大きく上下し、不安定になってしまいました。僕は不安に

なり、第一志望校のレベルを下げようと考え、塾長に相談しました。しかし塾長は僕に、志望校を下げないよう、言いました。志望校を下げると、勉強や高校への熱意が失われ、結果学力が下がって行く



のがこの時期の受験生の特徴だというものです。塾長は、多くの塾生の様子を毎年真剣に見てきた方なので、その助言を信じ、「瑞陵高校」を受験することを強く決意しました。

高レベルの高校を志望するからには、それまで以上の勉強が必要となります。それに加え、僕には肝心の「集中力」がなかったので、集中できる環境に身を置くことが必要となりました。そこで、個別授業（「塾生個別」）を受け、そして自習室に通うようにしました。塾ではスマホは使えないし、自習室は私語厳禁なので、30分に一度休憩しないと勉強が進まなかった僕でも、しっかりと集中して勉強に取り組むことができました。こんな時に

なってやっと「集中できる環境」の必要性を感じました。受験前の一か月は、ほぼ毎日塾に通い、結構辛い思いをしました。毎日、「もう勉強したくない。」とっていました。それでも塾に通い続け、ライバルに刺激をもらいながら、受験後にしたいこと、高校で楽しみたいことなどを考えながら、全力で勉強しました。そして受験当日、塾からプレゼントされた水筒をお守りにして、全力を出し切る事が出来ました。一番苦手な社会の点数が、一番得意な数学より高得点だった事に驚きました。「個別指導」を受けてよかったと、つくづく思いました。自己採点の結果、点数は去年の合格ボーダーよりも低く、塾長に報告した時も、「受かったとも落ちたとも言えない点数だ。」と言われた時は、これまでにない不安を感じました。が、第一志望の瑞陵高校に合格することができました。そのことを塾に報告に行った時、塾長は僕よりも喜んでくれて、本当に塾生への気持ちが強い方だと思いました。

これから受験に立ち向かっていく受験生の皆さん。いつも授業の最後に

言われるように、一日一日“時間を大切に”、頑張ってください。僕が入塾してから約二年半、熱心に教えて頂いた神田塾の先生方、たくさん迷惑をおかけしたと思いますが、不安で仕方ない時にいただいた様々なアドバイスや、励ましの言葉の数々が、僕の大きな力となりました。感謝しています。本当にありがとうございました。

中島 悠斗

①暁中学

②中学1年生



【一宮西高校】

私は中学三年生の春期講習会の時に入塾しました。それまでほかの塾に通っていたのですが、苦手な数学が難しくなり内申点も下がり続けていました。神田塾は厳しいと聞いていて不安もありましたが、友達の誘いもあって入塾することを決めました。

塾に入ると、周りの人たちは、本気で勉強に取り組んでいました。その姿を見て、私の中には焦りが生まれました。ただ、焦りが生まれたことにより、私は、塾ではより一層集中して授業を受けるようになり、家でもより勉強をするようになりました。これは私にとってとても大きな変化でした。

塾に通う中で特に大変だと感じたのは「土曜講習」です。最初の頃は、慣れない長時間の勉強で、集中力が余り持たないこともありました。ですが、「土曜講習」に慣れるにつれて、自然と集中力も身に付いて行き、その結果授業に没頭できるようになって行きました。



受験が近づくにつれて不安が大きくなり、夏休み明けから「個別指導」を受け、また、自習室を利用するようになりました。ほぼ毎日勉強をする中で私が受験勉強を続けてこられたのは、友達のおかげです。勉強をやりたくないと思った時でも、すぐそばに友達の姿があり、私に「自分も頑張らないといけない。」という気

持ちにさせてくれました。周りの人達も志望校に合格するという目標に向かって真剣に頑張っている。その姿に影響され、刺激を受けることで、私も最後まで集中を切らすことなく勉強を続ける事が出来ました。また、友達と毎日何気ない会話をして笑い合う事が、私にとって結構大きな息抜きにもなりました。

受験当日は、頭によさそうな人がたくさんいて緊張しましたが、塾で言われていた受験当日のアドバイス、そして自分が今までに頑張ってきたこと



を思い出し、落ち着いて問題に向かい合う事ができました。

受験生の皆さん。この一年間は体力的にも精神的にも大変だと思います。ですが、時間の使い方を工夫し、多少の息抜きもしながら、後悔のないように精一杯頑張っ

てください。(塾の先生方から言われていた「時間を大切

にする。」は、本当にその通りだと思いました。)

神田塾の先生方、短い間でしたがお世話になりました。神田塾で一年間頑張っ

橋口 稟香 ①神守中学 ②中学3年生

【旭丘高校】

僕は小六の三月に神田塾に入りました。神田塾に入った当初は、「塾行くの嫌だな。勉強したくないな。」と思うことが多々ありました。しかし、塾長の話を聞いているうちに「中学生の今、真剣に勉強を頑張らなければいけないな。」と思うようになりました。

神田塾には春期・夏期・冬期の各講習会があり、



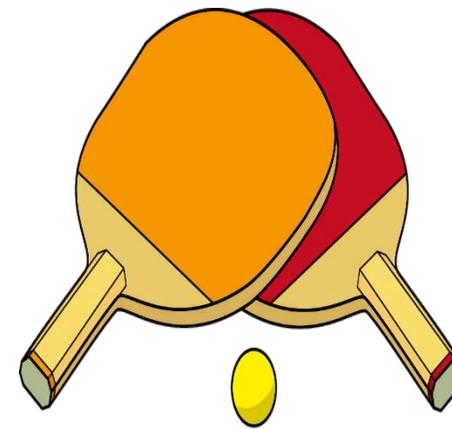
三年生になると「土曜講習」と「日曜講習（ザ・ファイナル）」が追加されます。講習会の中では、過去の模試の問題や、類似問題を解く「テスト・ゼミ」というものがあります。この「テスト・ゼミ」では、一回ごとに順位が発表されます。僕はこの順位を上げることをモチベーションの一つとして、勉強に力を入れました。

僕は「旭丘高校」を受験し、合格することができました。「旭丘高校」を受験しようと思ったのは、塾長の話聞いて、よりレベルの高い高校へ行き、より大きな刺激を受ける中で、自分を鍛えてみたいと思ったからです。

勉強をしていく上で最も大切だと思ったのは、塾で何度も言われるであろう『間違い直し』をすることです。一度間違った問題は、次にきっちりと解けるようになるまで、「直し」をする。そうしないといつまでたっても力がかからないどころか、力は全くつかず、逆に落ちて行き、結果「自信」をなくすことになってしまいます。

勉強をしたくないと思っている人はたくさんいると思います。僕も、勉強をしなくてもよかったら多分していなかった、と思います。しかし、勉

強は絶対にやるべきです。勉強するのは苦しいと思いますが、中学生の今、しっかりとやるべきだと、受験を終えた今心からそう思います。勉強することにメリットはたくさんあるけれど、デメリットはほぼ無いと思います。「集中力」、「継続する力」、「計画を立てやり遂げる力」、「忍耐力」



等、勉強することによって将来にわたって役に立つ様々な力が身に付く、と塾では教わりました。また、自分の中に眠っている「能力」を引き出し、将来につながる「可能性」を広げる事にもなると、これも塾で学びました。この点は高校入学以降、しっかりと意識し、試してみたいと思っています。いずれにしても、勉強はできるときに「しっかりと」やる。これも神田塾で強く言われていたことですが、本当にその通りだと今、改めて思っています。

受験生の皆さん、そして中一中二の皆さんも、今、しっかりと勉強に取

り組んでください。神田塾の先生方、三年間本当にありがとうございました。

No.6

安保 海翔 ①暁中学 ②中学1年生



【一宮西高校】

僕は中学三年生から入塾しました。最初のうちは塾の授業のレベルやスピードに余りついて行くことができず、辛く感じることもありました。が、少しでも力をつけ少しでも良い高校に行くために頑張る、と自分に言い聞かせ、塾に通っていました。入塾したばかり

の頃は行きたい高校など全く決まっていませんでした。その時は学校のテストである程度良い順位や点数が取れていたこともあって、自分の力を過信していました。しかし、神田塾に通うにつれて、実は自分には力（=実力）がない、ということに嫌でも気付かされました。ただ、志望校を決めるにあたっては、これから伸びていくであろう自分の力を信じて、『一宮西高校』を志望しました。

前にも述べたように、学習面では最初は塾のスピードに全然ついていていけませんでしたが。そもそも、僕は正直勉強がきらいだったので、家で復習などをしようと思っても、ほとんど思うだけで結局何もしないで終わっていました。そんな時、兄が「勉強しろ。」と言ってくれました。その兄の言葉や、少しずつ塾に慣れたことで、家で勉強することが増え、塾の授業にも少しずつではあるけれどついて行くことができるようになりました。

「夏期講習」「土曜講習」を経て、ついに「冬期講習」が始まりました。冬期講習が始まったことによって、入試が近づいてきたことを嫌でも実感さ

せられ、前にも増して家でも勉強をするようになりました。冬期講習では



ほぼ休みがなく、辛いと思うことも多くなりました。でもそんな時は、辛いのは僕だけじゃない、周りの人達も皆頑張っているんだ、（実際周りの人達は、常に真剣に勉強に取り組んでいました。）と思いつつ乗り越えました。

中学3年生の皆さん、（きれい

ごとになるかもしれませんが、）あなたは一人じゃない。一緒に頑張っている友達、周りにいるみんなが仲間であり、よきライバルです。何よりも、真剣に応援してくれる神田塾の先生がいる。辛いだらうけど、自分の中の弱さに負けることなく、受験勉強を精一杯頑張ってください。

最後になりますが、神田塾の先生方、一年間という短い間でしたが、『一宮西高校』に僕を合格させてくれて、ありがとうございました。高校でも

この一年間で学んだ様々なことを糧に頑張ります。

本当にありがとうございました。

福島 玲空 ①天王中学 ②中学3年生

【瑞陵高校】

僕が神田塾に入塾したのは小学校六年生の時でした。当時の僕は遊んで



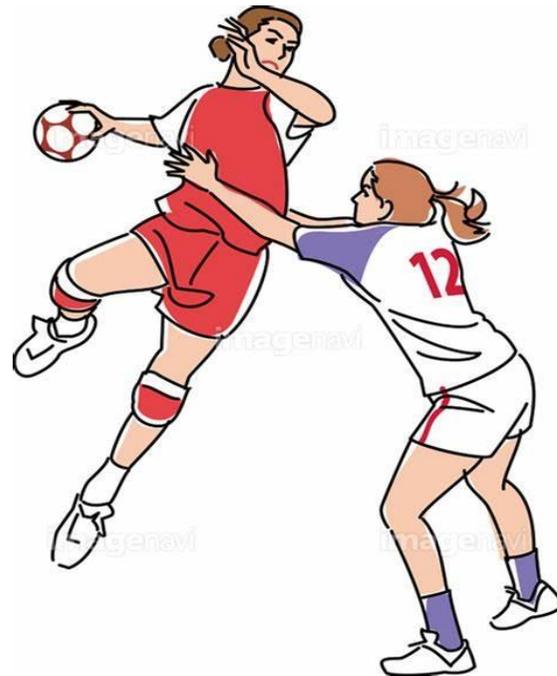
HANDBALL

ばかりでまともに勉強もせず、入塾テストでは算数で19点を取ってしまったほどでした。そこから先生方のご指導を受け、徐々に学力が向上して行き、最終的には第一志望校である『瑞陵高校』に合格することが

できました。

ここまでの過程で特に印象的だったこと、それはやはり中学 3 年生時の「冬期講習」や受験を近くに控えている時の「土曜講習」、「日曜講習」(『ザ・ファイナル』)です。冬期講習では、入試が本格的に始まるのだ、という実感が強く湧きました。また、今まで以上に高い難易度の問題をより速く、より多く解き続ける必要があります。「土曜講習」、「日曜講習」も、長い時間を集中し切り、より入試に近い問題を真剣に考える力を必要とするので、とても大変だったというのが正直な感想で、でもそれらがなかったら、絶対に「合格する力」はつか

なかつたと、はっきりと思います。続いて僕が受験生に伝えたいことは、「受験で特に意識して欲しいこと」です。僕が受験勉強をする上で意識したことは、「間違い直し」と「多くの問題を解くこと」です。こ



の二つはとても当たり前のように聞こえますが、この二つのことを意識し、実際にやってみることで自分の学力を無限に伸ばすことができると思います。まず、「間違い直し」について、これはすでに先生方から何度も言われていることで、すでにきちんとやっている人もいます。テストや模試で、「ああ、もっこの単元勉強すべきだったな。」と思ったことはありませんか？僕はありました。この「間違い直し」を“きちんと”行えば、そのようなことが劇的に減るはずですよ。

次に、「多くの問題を解く」について。幅広く発展的な問題も含め、チャレンジしてみてください。それを意識することで自分の実力の幅を広げる事が出来ます。これらが僕が受験勉強でやってきたことです。

さて、とある人物の名言で、「勝つまでやる。だから勝つ。」という言葉があります。この言葉の通り、無理はせず、しかし何回も何十回も失敗をしたとしても、自分の限界に挑み続け、理想(=「合格」)を掴み取って欲しいと僕は願っています。神田塾の先生方のご指導を信じ、一日一日を大

切に、しっかりと頑張ってください。

No.9

吉本 時 ①神守中学 ②小学6年生

【一宮西高校】

私は中学二年生の冬に入塾しました。

初めは全く授業について行けず、定期テストの点数もそれほどは上がらなかったもので、あまり勉強に対して熱心に取り組めませんでした。でも、周りの人たちが真剣に勉強に取り組んでいる中、私も刺激を受けて、冬休みに毎日自習室に通ったりして、勉強を継続することができました。

三年生になってからは、定期テストの点数や順位がはっきりと上がって行き、自分に自信がついて行きました。一番苦手だった英語に関しては、入塾する前は19点しかなかったのに、82点にまで上げる事が出来ました。



とにかく中学一年生の勉強の基礎から固める事が何とかできたので、このように成果が出たのだと思います。他の教科も英語みたいにどんどんできるようになって行ったので、順位もさらに上げる事が出来ました。

夏になって「夏期講習」が始まり、毎日が塾の勉強で、初めは少し嫌でした。が、仲の良い友達が入塾してくれたこともあってか、モチベーションを保つことができました。

中学三年生の途中からは「個別指導」を受け、自習室を使用したことで塾に通うのが週七日になってしまったのは、ある意味とても大変でした。

が、その時にはかなり勉強が分かるようになってきていて、塾に行くのが苦ではなく「もっと力をつけよう。」と、むしろ楽しく通う事ができました。



志望校については、三年生の冬ぐらいまで全然決まらなくて、いったいどこを目指しているんだろう、という感じでした。が、はっきりと「一宮西高校に行く。」と決めた時点で、改めて勉強に熱が入るのを自覚しました。受験勉強を続ける中で、過去問を解いている時、思ったように点が取れず「勉強が嫌だ。」と思う日も時にはありましたが、解答用紙に先生からのメッセージが書いてあったりして、たくさん励まされたので、その結果、逃げずに受験勉強を続ける事が出来ました。

入塾してすぐの頃は、やる気のなかった私ですが、こうして勉強を続けられ、さらに第一志望校に合格するという経験ができて、本当に良かったと思います。きっと私の人生において、すごく大きな力になると思います。色々励まし、支えて下さった神田塾の先生方、そして両親には、感謝しか

ありません。一年半本当にありがとうございました。

野村 未唯茄 ①暁中学 ②中学2年生



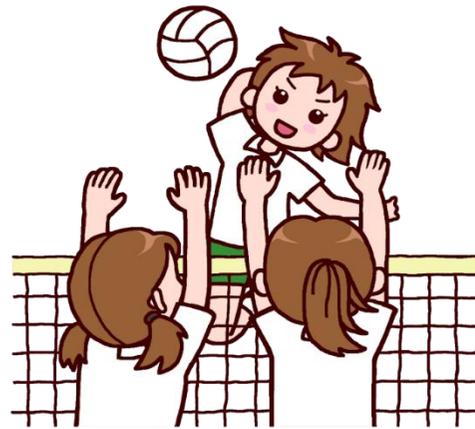
【向陽高校】

私が神田塾に入ったのは、中学二年生の終わりごろでした。入塾した時から先生方に言われていたのは「解き直し」の重要さでした。今まで私はたくさん問題にとりあえず当たってみる、という勉強の仕方でした。ですが、神田塾に入って「解き直し」を習慣化させました。授業で間違えた所に印をつけ、次の授業までに必ず解き直しをしました。それを続け、定期テストの勉強の時その問題をさらに解きました。そして受験勉強

の時も何度も解き直しをしました。そして受験勉強を続ける中で、何度も何度も「解き直す大切さ」にようやく気付いたのです。数学では、何回か解いてようやく理解して答えを出す事が出来たのです。なので、塾の教材だけで大丈夫か心配していた時に、「塾の教材だけでいいから何周もやるように。」とアドバイスして下さいました先生方には感謝の気持ちで一杯です。

また、私は定期テストの点数や模試の結果から社会科の歴史が苦手なことが分かっていました。そこで私は社会科の個別授業を受けることにしました。

問題集の基礎的な問題を解き、何度も間違え、何度も同じような質問をする私に、先生は根気強く、繰り返ししっかりと解説をしてくださいました。ただ単にその問題



の解説をするだけでなく、それに関連する出来事やストーリー、同じ時期の他の国々の様子の説明を受け、所々に質問を交えながら先生から教えてもらったことで、私は徐々に歴史の流れを理解できるようになって行き

ました。最後に一点でも多くの点数を取るために個別授業を受けたのですが、「日曜講習（ザ・ファイナル）」では良い点数がほぼ安定して取れていたため、この「個別授業」は私にとってとても深い学びになり、高校での勉強にも活かせると思いました。

私が塾で学んだことはたくさんありますが、一つの問題を納得するまで「解き直す」ことなど、何度でも最後まで根気強く取り組む姿勢を学べたことは、今後のことを考えるととても大きかったと感じています。

最後に入試直前まで真剣に私たちに向き合い、本気で支えて下さった神田塾の先生方、本当にありがとうございました。

西川 知那 ①永和中学 ②中学2年生



【瑞陵高校】

No.12

ぼくは、中学 3 年の春から神田塾に入塾しました。友人の薦めもあり、第一志望校の「瑞陵高校に合格する。」という強い気持ちを持って入塾することを決めました。

入塾し、最初の頃は授業のスピードは学校に比べとても速く、内容もとても濃かったため、ついていくことが難しかったです。その時に始めたのが、先生方によく言われていた「間違い直し」です。一度間違った問題を、家で自分が納得するまで繰り返しやってみることで、確実に実力が身に付いて行くのを感じ取れました。

また、3 年生になるまでは、定期テスト前の勉強は「定期テストのための勉強」であり、その場しのぎの知識を身につけていただけのように思いますが、3 年生になり、「入試も視野に入れた勉強」を特に意識し、知識や論理を頭に深く刻むように勉強をして行きました。その結果、定期テス



トでは一桁の順位をキープすることができました。

神田塾で一番辛かった時期は、夏過ぎ、数学のクラス分けが行われ H クラスでの授業が始まったときです。僕は当時、数学は苦手で、授業についていくことは凄く大変でした。難しい問題がとて多いのに、H クラスの周りの人たちは素早く解き、答えているのに対し、僕は全然分からず、先生に当てられた時も「分かりません。」と何度も言っていました。でも絶対に H クラスで授業を受けたくて（=周りの人に負けたくなくて）、必死に数学を勉強しました。クラス分けにより、最初は特にプレッシャーなどが生まれたけれど、そこで頑張ることで自分は大きく成長できたのだと思います。

『日曜講習』（『ザ・ファイナル』）では、入試が近づくにつれ、自分に力が身に付いて行くことがすごく感じられました。僕は国語もどちらかというと苦手、日曜講習の第一回、二回の予想模擬テストでは六割ほどしか取れていませんでした。しかし、入試が近づくにつれ、少しずつ、そして

確実に点が取れるようになって行き、安定して八割は取れるようになりました。終盤はどれも 5 教科 90 点以上は安定して取れていたの、自分に自信を持つ事が出来ました。

入試の一週間前からは、正直記憶はほぼ残っていませんが、本当に苦しかったことだけ覚えています。緊張が原因か、過去問などで簡単なところでミスをしたりしてしまうと、すごく焦ったりしていた気がします。しかしそんな時も積極的に「間違い直し」を行っていたこと、そして、何よりも入試を見据えて真剣に励まして下さった塾長はじめ、塾の先生方の熱意が、僕に合格への切符を与えてくれたのだと思います。

受験生になる人たちへ伝えたいことは、勉強する時間は本当に限られている、という事です。塾長もよくおっしゃる、「時間を大切に」という言葉は、しっかりと胸に刻んでおくべきだと思います。

神田塾の先生方へ。一年間ありがとうございました。これからの生活でも塾で学んだ様々な教えを忘れずに将来へと進んでいきます。



森脇 璃一

①暁中学

②中学 3 年生

【一宮西高校】

私が神田塾に入塾したのは、中一の夏期講習からで、中学に入って初めてのテストが終わった後でした。最初のテストでは、自分が思っていたより点が取れず、特に英語が苦手で、点数の変動がよくありました。塾に入った初日に、塾長から勉強の方法や量、生活についていろいろ教えてもらったりしました。その中でよく言われていたのは、「間違い直しをしっかりとやること」です。でも、中一だった時の私は、やったりやらなかったりと、まじめに勉強に取り組むというには程遠かったと、振り返ってみると感じます。中二の春休みになり、どうにかして点数を上げなければ、と考えはじめ、春期講習から四月にかけて一年生の分をしっかりと復習し、中二の



定期テストに挑みました。結果、点数は上がって行きました。

三年生では、一年間が非常に短く感じられました。でも、一番勉強しました。(当たり前ですが。) 苦手な英語はなんとかやっていたけれど、長文読解も本格的になった時、

手がつけられなくなってしまい、六月ごろに「個別指導」を受けることにしました。授業では聞きにくかったことや、私が苦手なところを中心に質問する等、情報だらけの頭の中をしっかりと整理することができ、しっかりと長文に向き合えるようになったと思います。それと並行して自習室も使い始めました。家で勉強する時に集中しにくい時間帯や曜日に自習室を使うことで、しっかりスイッチを入れて勉強できました。これらを続けているうちに、「冬期講習」が近づいて来て、この「冬期講習」が終わったらいよいよ受験なんだ、という実感がわき、緊張することが多くなってしまいました。そんな時に心強かったのが、塾のメンバーでした。塾終わりに、

その日の内容について話し合ったり、励まし合ったりしていました。ちょっとしたことですが緊張感が和らぐのを感じました。そのおかげで、受験直前まで元気に心強く過ごすことができたと思っています。また、冬期講習期間中だけでも自習室に行こうと、同じ中学校の人を誘ってみました。その結果、みんなで受験までの厳しかった日々を、励まし合い、支え合ったりして乗り越える事が出来たのだと思います。

最後に、私が中学生の間ずっと支えてもらった先生方、本当にありがとうございました。私は、神田塾に入って勉強できたことを誇りに思います。入塾当時の私は、ここまで自分が勉強に打ち込めることなど、全く予想もしていませんでした。でも先生方が日々私たちに与えてくれる言葉を心にしっかり刻み、勉強を続けてくる事が出来ました。「時間を大切に」「間違い直しは納得する



まで何度も」「仲間と刺激し合う」を常に頭の中に入れ、反すうしていまし

た。神田塾で学んだことを胸に刻み、高校でもしっかりと頑張ります。

鈴木 湖結 ①暁中学 ②中学1年生

【旭丘高校】

私は、小学校六年生の三月に入塾し、この春、無事第一志望校に合格することができました。そんな私の受験期について語って行きたいと思います。

〈苦手教科の克服〉

中一の時「国語」の点数が伸び悩み塾長に相談した結果、自習室に通い国語の新中間という問題集に取り組むことになりました。「先輩が四周して



国語が伸びた。」と塾長から聞き、私も四周してやろうと、週に二日コツコツと自習室に通いました。最初は難しくて間違いだらけでしたが、繰り返すうちにすらすら読めるようになり、文章への嫌悪感がなくなっていることに気が付いたのです。そして受験直前では、過去問で九割以上の点数を取れるようになりました。受験当日は高得点を出すことができませんでしたが、やるだけやったので納得しています。

〈インターネットとの付き合い〉

私には自室がありません。そのため、親がいつでも干渉できる状況にありました。夜遅くまでゲーム等をしていたことはほとんどありません。また、ツイッターでは一緒に勉強する仲間を見つける事ができます。某有名中高一貫校では「中学で高校数学が終わる」と実際に本人から聞きました。公立と私立ではこんなに差が開いているのかと心配になり、そのことが勉強へのモチベーションに繋がりました。このように、どうせ使うならネットを勉強する上でプラスになるように有効利用するべきだと思います。(た

だし、私の場合は、特殊なケースだと思いますが。)

〈私立高校受験について〉

滝高校の受験では、最初に過去問を見た時、正直落ちると思いました。ただ、塾長からのアドバイスと、「今までの成績を見ている限り大丈夫。」という言葉もらったおかげで、無心に過去問に取り組み合格することができました。

〈最後に〉

塾で教わった勉強方法や、世の中の動き、受験裏話などは大変興味深かったです。貴重な中学の三年間を神田塾で過ごさせてもらい、物事の本質について学ぶ機会を得た気がします。本当にありがとうございました。

松本 一秀

①永和中学

②中学1年生

